

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号：82503

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23652177

研究課題名（和文） 真珠の考古学—未知の真珠採集遺跡発見を目指して

研究課題名（英文） Archaeology of the Pearl - to discovery of the collecting site

研究代表者

黒住 耐二 (KUROZUMI TAIJI)

千葉県立中央博物館・研究員

研究者番号：80250140

研究成果の概要（和文）：弥生から古代の真珠採集遺跡の発見のために、文献・資料・現地調査を行った。その結果、福岡県糸島市の弥生～古墳の天神山貝塚でのみ、真珠貝の一種、アコヤガイの複数出土を確認し、この遺跡が真珠採集遺跡である可能性を認めた。また、同時期の沖縄諸島では複数の遺跡が真珠採集遺跡であると考えた。中国広西チワン族自治区の珍珠城とスリランカのマナールで、これまで明らかになっていなかった真珠採集遺跡の状況を確認した。

研究成果の概要（英文）：Surveys of literatures, archaeological materials and present field observations was made to discover on the archaeological sites of collecting site for pearl oyster from Yayoi to Kofun period. Only on the Tenjin-yama site, Itoshima-shi, Fukuoka pref., several remains of pearl oyster, *Pinctada fusca* was detected in Yayoi to Kofun period. This *Pinctada* shells of Tenjin-yama site will be evidence of collecting site for pearl oyster. Another pearl oyster, *P. maculata* were excavated from some archaeological sites of late Okinawa shell midden age. I will suppose that these sites will be also collecting site for pearl oyster. Historically, Pearl Oyster Castle of Hepu, Guangxi, China and Gulf of Mannar, Sri Lanka were well known to collecting site for pearl oyster, but details of these sites were unknown. In this survey pearl oyster remains were discovered on both sites, species, waste condition and age were understood for the first time.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：真珠, 採集遺跡, 天神山貝塚, 珍珠城, マナール湾, 貝塚時代後期, pearl-oyster, Gulf of Mannar

1. 研究開始当初の背景

交易品や威信財としての真珠は、古今東西の多数の文献に現れ、日本でも奈良正倉院の御物等の伝世品として現存している。しかし、日本国

内で遺跡から発掘された真珠は、2001年の集いで、縄文時代～古代で18遺跡のみであり(中津, 2001)、この真珠を実際に採集した「真珠採集遺跡」はほとんど知られていない。一方で、先

史時代では、鹿児島県錦江湾東岸の柗原貝塚では、真珠貝が大量に採集されており、真珠も発見されていることから、報告者は、この貝塚が真珠採集遺跡であると考えてきた(黒住, 2005)。しかし、魏志倭人伝の「卑弥呼が中国に真珠5000個を送った」という記述(例えば杉山ら, 1990)は良く引用され、また、その後、正倉院御物にはかなり多くの真珠の用いられていることも知られているものの、弥生時代～古代の採集遺跡は全く明確になっていない。そのため、考古遺物等で研究・検証されている入手形態・社会形態・交易実態が未解明なまま現在に至っている。

国外においても大同小異で、中国南部海域やマルコポーロの東方見聞録(青木, 1969)でも著名なスリランカでの真珠採集が知られているが、その詳細な遺跡の報告はほとんど知られていない。

2. 研究の目的

国内で、主に弥生時代～古代を中心に真珠採集遺跡の発見を目指す。そして、これまでの真珠出土遺跡とその母貝の検討から、様々な時代の真珠採集を検討する。

また、国内との比較の上でも、ほとんど知られていない中国南部とスリランカの真珠採集を現地を確認し、その状況を把握する。

3. 研究の方法

国内では、現在も真珠養殖の盛んな伊勢・志摩地方と九州北西部を主な調査地として、これまでの文献資料調査を行い、現地調査を行う。今回は、遺跡発掘を行わず、表面踏査とこれまでの収蔵資料の検討により、真珠貝を中心とした真珠母貝の貝類遺体の出土状況を把握する。また、現生貝類の生息状況も同時に調査する。

国外では、中国の広西チワン族自治区の合浦周辺とスリランカのマナール湾が真珠採集地として文献上に現れるので、この両地域を主な調査

地とする。国内の方法に準じる。

4. 研究成果

(1) 全体のまとめ

まず、今回の中国／珍珠城とスリランカ／マナール湾という、これまでほとんど文献上でしか知られていなかった”周知遺跡”を現地を確認できたことの意義は大きいと考えられる。この両地点の類似点としては、1)かなり限られた空間にしか真珠貝遺体は認められず、真珠の管理はかなり厳密に行われていた可能性が高いこと、2)遺体群はかなり短期間のものである可能性が高く、廃棄自体も集中していたと考えられること、3)他の貝類遺体は少なく、真珠貝のみから形成されているようであったこと、などが挙げられよう。真珠貝の炭素年代を表1に示した。

表1. 国外の真珠採集遺跡から得られた真珠貝の炭素年代.

中国/広西チワン族自治区	項目	試料	2σ 年代範囲	世紀表記	測定番号	
珍珠城	城外/堀上げ	670 ± 20	1668calAD-1688calAD (86.4%)	18世紀後半～17世紀末	1AAA-123381	
	堀内/表採	670 ± 20	1668calAD-1678calAD (86.4%)	18世紀後半～17世紀後半	1AAA-123382	
	表採	Modern			1AAA-123383	
スリランカ	マナール	試料名, 包巻部	1140 ± 20	1295calAD-1309calAD (95.4%)	13世紀初頭～14世紀初頭	1AAA-123387
		試料名, 堀上げ	1130 ± 20	1293calAD-1303calAD (95.4%)	13世紀初頭～14世紀初頭	1AAA-123385
		試料名, 堀上げ	1070 ± 20	1270calAD-1385calAD (95.4%)	13世紀後半～14世紀後半	1AAA-123386
		試料名, 堀上げ	1040 ± 20	1280calAD-1400calAD (95.4%)	13世紀末～14世紀末	1AAA-123384

今回の主調査地とした伊勢・志摩地方と玄界灘での調査結果を表2にまとめた。

表2. アコヤガイを中心とした真珠関連貝類の伊勢・志摩地方と玄界灘における遺跡出土状況.

調査地	調査名	調査年	時代	アコヤガイ	アワビ類	イガイ	
伊勢・志摩	志摩地方 白浜貝塚	大川, 1990/現地調査	弥生	N	A	A	
			古墳	N	A	A	
			平安	N	R	R	
			室町	N	N	N	
伊勢湾口	宮内庁/大湊海運部	三重県, 2005	縄文後期	[N]	G	G	
			日置貝類/新井氏遺跡	未知	[N]	[N]	[N]
玄界灘	藤原/神明社遺跡	徳島県, 2003	弥生	[N]	[N]	[N]	
			古墳	[N]	[N]	[N]	
西日本	奈良県 大和山貝塚	法摩町, 1974	縄文前期	N	N	R	
			縄文前期	N	V/R	R	
			縄文後期	N	V/R	R	
			縄文後期	N	V/R	V/R	
	新町遺跡	法摩町, 2006/畑山, 2010	弥生～古墳	●R	C	R	
			縄文後期	N	V/R	N	
	岐阜県 志摩市 志摩村遺跡	高木, 2000/資料調査	縄文後・晩期	N	V/R	N	
			弥生前・中期	N	R	N	
	唐津湾	藤原 松原遺跡	佐々木, 2010/資料調査	縄文前期	N	N	N
				縄文後期	N	N	V/R
縄文後期				●R	V/R	R	
縄文後期				N	N	G	
九州	小川島貝塚	藤原・木村, 1982	縄文後期	N	N	C	
			弥生前～後期	N	C	A	
	宇木渡田貝塚	田中, 1982/田中, 1991	縄文後期～弥生前	N	N	N	
			弥生前～中期	N	N	N	
	相模湾 相模貝塚	永井・田中, 1982	弥生前	●V/R	N	N	
			弥生前	●V/R	R	V/R	
久里天満遺跡	奈良県, 1987/資料調査	弥生～古墳	N	N	N		

この国外例も参考にしながら、現地および文献調査により想定される日本の真珠採集遺跡の変遷を暫定的に表3に示した。地域は、従来や現在の区分とは異なり、報告者の想定しているエゾ(蝦夷:北海道のみならず、古代位までは東北地方を含めている)・東ヤマト(関東から中部地方程度の本州)・西ヤマト(本州中部以西・四国・九

表3. 日本における真珠採集遺跡の変遷想定(暫定).

	縄文			弥生	古墳	古代	中世	近世
	早・前期	中期	後・晩期					
エゾ		茶津貝塚	【岩谷跡次】					
東ヤマト	→		【井野長前】				【松島藤原跡】	
西ヤマト	本州中西部	【高浜貝塚】		【青谷上寺地】				(志摩)
	九州北部		→	【天香山貝塚】				(大村湾)
	九州南部			【松原貝塚・草野貝塚】				
琉球					【ナガラ原貝塚・平敷原・ツバル・フエン】	【平良グスク】		
					【サ城貝塚】			

アンダーライン: 真珠貝, イタリア: 淡水二枚貝類, コチク: イガイ

[]は可能性のあるもの, →は可能性も否定できないこと, ()は採集の知られているものを示す

州: 弥生時代の突帯文土器文化圏や照葉樹林文化圏と類似した地域を想定している)・琉球に分けて示した。

縄文時代早・前期には淡水二枚貝の真珠採集が考えられ、後・晩期にはエゾや東ヤマトで同様な貝類が母貝として採集された可能性がある(黒住, 2004a,b)と考えた。その後、淡水二枚貝に関しては、中世の東ヤマト(西野, 2012)で想定されるものの、ほとんど認められなかった。

イガイ類の利用は、縄文期のエゾでは茶津貝塚から加工品を含め多数の真珠が出土しており(小松, 1990; 福田, 1990)、この貝塚は真珠採集遺跡であると考えられる。その後、大形イガイ類利用の遺跡は見つけられず、弥生時代になって西ヤマトで青谷上寺地遺跡(黒住, 2012)のような真珠採集の可能性のある遺跡が認められた。縄文期に、西ヤマトでイガイの優占する遺跡をみつけられず、報告者は弥生期になって、エゾのイガイ真珠採集遺跡とは別に、新たな真珠重要が生じた可能性も今後検討の視野に入れるべきだと考えている。

アコヤガイ等の真珠貝利用の採集遺跡には、報告者による鹿児島県錦江湾東岸の縄文後期の終原貝塚がある(黒住, 2005)。同時期の錦江湾対岸の草野貝塚では、いくつもの真珠が得られているものの、意図的な真珠採集とは考えられていなかったが(平田, 1988)、報告者は終原貝塚の例から、草野貝塚も真珠採集遺跡であると考える。九州北部でも、前述した赤松海岸

遺跡でアコヤガイと考えられる種が複数出土しており、真珠採集の可能性を否定はできない。なお、縄文期のアコヤガイ出土遺跡として、情報が古いものの、酒詰(1961)には、西ヤマトの5遺跡(うち3遺跡は、上述の草野貝塚を含む鹿児島県)しか挙げられていないことも、アコヤガイ採集が特異的であった可能性を示唆している。そして、5遺跡の一つ、愛媛県御荘町の縄文後期の平城貝塚の近年の発掘調査報告では、専門家によって貝類遺体が詳細に検討されているが、アコヤガイは含まれていない(石川, 1996)。近接した同時期の高知県宿毛市の宿毛貝塚からも大形の真珠が発掘されており(中津, 2001)、この地域にも縄文期の真珠採集遺跡の存在する可能性もあるが、極めて少ない発掘遺跡数から考えて、現時点で調査を進めるのは困難であると思われる。

その後、今回の調査で確認された福岡県糸島半島北西岸の外海に面した天神山貝塚の弥生～古墳のアコヤガイを含む貝層が真珠採集遺跡である可能性が想定された。天神山遺跡では、アコヤガイは他の食用貝類中に少数含まれるという組成で確認されており、国外の管理された空間での真珠貝処理とは、現時点では異なった出土様式である。ただ、この貝塚では、弥生以降の貝塚は比較的広く分布していることが知られており(志摩町教育委員会, 1974)、今後の調査ではアコヤガイの優占する貝層が発見される可能性も存在すると考えている。

九州北西岸には、文献調査で示さなかった様々な時代の貝塚が他にも知られている。例えば、長崎県鷹島町(現松浦市)の鷹島海底遺跡(山本, 1992, 1993; 鶴飼, 2011)や同五島/福江市の白浜貝塚(安楽, 1981)等であり、やはりこれらの遺跡からはアコヤガイの出土は報告されていない。これらのことから、天神山貝塚でのアコヤガイの出土は特異であると判断できよう。また、近世～現代の真珠産地である長崎県大村湾も当初調査地の一つと考えていたが、近世期の大

村藩では厳格な真珠採集制度の存在や藩主がアコヤガイを食用に供するなど真珠貝に関連する文献資料が存在するもの(松月, 2005)、大村藩主の居住域である玖島城周辺での発掘調査では、自然貝層の可能性もあるアコヤガイを含まない貝類遺体群が報告されているのみで(パリオ・サーベィ株式会社, 2002)、近世期の包含層からは貝類遺体はほとんど確認されていないようである(稲富, 1986; 川口, 2002)。また、上述のように、弥生期の真珠貝利用を念頭に置いた場合、大村湾域での発見の可能性は低いと判断し、調査地としなかった。

今回の調査・検討で、弥生を含む時代の真珠貝の採集遺跡の可能性のある遺跡として、天神山貝塚を指摘することができた。同様な過程によって、現在の真珠養殖が盛んな三重県の伊勢・志摩地方では、鳥羽市白浜貝塚の詳細な例でも、アコヤガイは全く確認できなかった。これらの結果から、今後の発掘調査により状況が変わることは当然想定されるものの、現時点では、少なくとも弥生～古墳の真珠採集遺跡は玄界灘の九州北部には存在していた可能性が高く、伊勢・志摩地方では可能性は低いと言えるのではないかと思われる。

従来から、邪馬台国の卑弥呼が魏に5000個の真珠を送ったということが知られている(例えば杉山ら, 1990)。この真珠は、今回対象にした真珠ではなく、辰砂(水銀朱等の赤色顔料)という見解もあり、この考えが定説化しつつあると思われるが(例えば岡山, 1997)、九州北部での真珠採集遺跡の可能性も今後の研究の視点になるのではないかと思われる。

これまで文献上では、ほとんど報告されることはなかったが、これまでの縄文期の終原貝塚や弥生期の天神山貝塚の状況から判断して、これまでも想定してきた沖縄の貝塚時代後期(弥生～古代並行期: 漁撈採集時代)やグスク時代(中世: 穀類農耕時代)のいくつかの遺跡から真

珠貝類が多く出土することを真珠採集遺跡として捉えることができると考えた。これまでに報告者の認識できた遺跡は、貝塚時代後期後半には海岸部に位置し、同終末期には台地上から知られ(フェンサ城貝塚)、グスク時代には台地上のグスク本体(平良グスク)となっている。貝塚時代終末期の遺跡はかなり稀で類例は沖縄県南城市の垣花グスク(黒住, 2008)程度しか確認できなかったが、垣花グスクや多くの貝塚時代後期後半・グスク本体の報告者のものを含めた貝類遺体報告から、真珠貝の出土は稀である。このような状況から、沖縄島においては、真珠採集遺跡は普遍的ではなく、時代を経るに従い、グスクという管理された空間に集められた可能性も考えられる。沖縄における交流の証拠としての真珠に関しても今後の課題ではあるが、ここに上述のような想定されるプロセスを示しておきたい。

(2) 謝辞

本研究を行うに当たり、伊都国歴史博物館の河合修、唐津市教育委員会の米倉美和子・仁田坂聡、佐賀県教育庁の渋谷格、早稲田大学の樋泉岳二の各氏には、文献の御教示・資料の実見・現地でのアドバイス等でお世話になった。記して、御礼申し上げたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計11件)

(1) 黒住耐二、青谷上寺地遺跡第12次発掘調

査で得られた貝類遺体、青谷上寺地遺跡12。鳥取県埋蔵文化財センター調査報告、査読無、46集、2012、265-276

(2) 黒住耐二、今帰仁城跡および周辺地域とシ

イナ城跡から確認された非海産貝類、国指定史跡 今帰仁城跡附シイナ城跡の自然—自然調査報告書—。今帰仁村文化財調査報告書、査読無、31集、2012、106-120

(3) 黒住耐二、ナガラ原東貝塚出土の貝類遺体

(2011年度)、ナガラ東原貝塚8. 考古学研究

室報告、査読無、47集、2012、41-45

(4) 黒住耐二、陸平貝塚のD貝塚2010年調査

で得られた微小貝類遺体、陸平貝塚. 調査研究報告書6. 陸平研究所叢書、査読無、8集、2012、60-66

(5) 黒住耐二、小掘原遺跡の貝塚後期層から

出土した貝類遺体、小掘原遺跡、北谷町文化財調査報告書、査読無、34集、2012、335-348

(6) 黒住耐二、下江中島遺跡から得られた貝類

遺体、下江中島遺跡・上日置女夫木遺跡. 熊本県文化財調査報告、査読無、278集本文篇、2013、83-94

(7) 黒住耐二、軟体動物(微小貝類). 市原市天

神台遺跡I(本文篇2). 市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書、査読無、25集、査読無、2013、265-276

(8) 黒住耐二、縄文時代後期の宮前貝塚から

出土したカワシンジュガイ、ひたちなか埋文だより、査読無、2013、38号、13-14

(9) 黒住耐二、首里城淑順門西地区および奉

神門地区の発掘調査で得られた貝類遺体、首里城跡. 淑順門・奉神門地区発掘調査報告書(I). 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書、査読無、68集、2013、186-200

(10) 黒住耐二、千葉県の外来種. カワヒバリガイ

(イガイ科)(特定外来生物)、生物多様性ちばニューズレター、24号、査読無、2011、4

(11) 黒住耐二、ホンビノスガイ、友の会ニュース、

査読無、74号、2011、1

[研究発表](計12件)

① 黒住耐二、貝類からみた琉球列島の環境変遷と交流～2010年調査～、「環太平洋の環境文明史」第3回国際研究者全体集会、2011年5月22日、沖縄県立博物館・美術館、那覇市

② 榎本輝樹(15名中10番)、多摩川河口干潟におけるマクロベントスの分布および環境特性の変化、2011年9月17日、2011年度日

本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会、高知大学

③ 黒住耐二(他3名)、沖縄諸島の先史遺跡で初めて確認されたオオツタノハの生息. 第15回動物考古学研究集会、2011年11月27日、奈良文化財研究所

④ 黒住耐二、貝塚出土の陸産貝類からみた環境変遷. 日本貝類学会平成24年度大会、2012年4月15日、東京家政学院大学千代田三番町キャンパス、千代田区

⑤ 池澤広美(4名中4番)、茨城県におけるコハクオナジマイマイの分布拡大と農作物被害、日本貝類学会平成24年度大会、2012年4年14日、東京家政学院大学千代田三番町キャンパス、千代田区

⑥ 黒住耐二、貝類遺体からみた沖縄諸島の狩猟採集社会から農耕社会への変化-2011年調査、「環太平洋の環境文明史」第4回国際研究者全体集会、2012年6月4日、札幌大学

⑦ 黒住耐二、沖縄諸島の歴史変遷を貝類からみる、平成24年度第2回琉球環境文化史研究会、2012年11月18日、沖縄県立博物館・美術館、那覇市

⑧ 黒住耐二、スリランカで見た貝類-真珠採集を含めて、第4回房総貝類談話会、2012年12月9日、千葉県立中央博物、千葉市.

⑨ 自然しらべ 2012 貝殻さがし! 調査グループ(代表)市民参加型調査による日本の海産貝類の現況、日本貝類学会平成25年度大会、2013年4月21日、豊橋市自然史博物館

⑩ 山下博由(4名中2番)、日本産サキグロタマツメタの記録-有明海・瀬戸内海に在来個体群は存在したか?-、日本貝類学会平成25年度大会、2013年4月21日、豊橋市自然史博物館

⑪ 新里貴之(14名中4番)、南西諸島沖永良部島鳳雛洞遺跡の調査、一般社団法人日本考古学協会第79回(2013年度)総会、2013年5月25日、駒澤大学駒沢キャンパス

⑫ 黒住耐二、マジジミは近世期の外来種か?、第22回四国貝類談話会、2013年5月26日、徳島県立博物館

[図書](計5件)

- ① 梅谷献二(編)、全国農村教育協会、原色図鑑.外来害虫と移入天敵、2012、404 pp.(分担: pp. 290-296、324、382-383)
- ② 今帰仁村教育委員会社会教育課文化財係(編)、今帰仁村教育委員会、2012.3.31.今帰仁村の自然.今帰仁村文化財ガイドブック.vol.3、2012、64 pp.(分担: pp. 290-296、324、382-383)
- ③ 千葉県立房総のむら(編/出版)、むらの自然、里山の暮らしと生きもの、2012年、23 pp.(分担:pp. 14-15)
- ④ 黒住耐二(監修)、ひさかたチャイルド、しぜんにタッチ!かたつむりのひみつ、2013年、27 pp.
- ⑤ 一般財団法人自然環境研究センター(編)、社団法人地域環境資源センター、田んぼの生きもの識別図鑑、2013年、93pp.(分担: pp. 49-51、85-87)

[その他]

講座等(計9件)

- ①2011年6月25日. 観察会講師「JSTサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト. 千葉県館山市沖ノ島観察会」(中央学院高校・千葉県立市原八幡高校・千葉県立沼南高校・千葉県国際中学高校、於:千葉県館山市沖ノ島)
 - ②2011年8月25日. 観察会講師「木下貝層貝化石採集観察会」(印西市教育委員会、於:千葉県印西市. 天然記念物「木下貝層」等)
 - ③2011年10月15日. 講座・観察会講師「ふるさとの考古学—遺跡と人のワークショップ. 貝の考古学」(ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社、於:茨城県ひたちなか市平磯海岸・埋蔵文化財センター)
- (→この講座・観察会は、茨城ケーブルテレビ/アイネット情報で放映)
- ④2012年1年30日. 講座講師「区民大学入門講座「ネイチャーガイド inしながわ」大森貝塚の時代から現代まで～東京湾の貝類史」(品

川区地域振興事業部文化スポーツ振興課: 中小企業センター) 89名

- ⑤2012年7月1日. 講座講師「『貝塚から出土する貝類について』(千葉県立加曽利貝塚博物館友の会:千葉県立加曽利貝塚博物館)
- ⑥2012年7月8日. 観察会講師「砂はま観察会&貝がら教室」(日本自然保護協会:千葉県美浜区検見川の浜)
- ⑦2012年8月4日. 講師「ふるさと考古学—遺跡と人のワークショップ パート7. 貝の考古学—」(財団法人にひたちなか市生活・文化・スポーツ公社:ひたちなか市平磯)
- ⑧2012年9月23日. 観察会講師「砂はま観察会&貝がら教室」(日本自然保護協会:三重県津市河芸町)
- ⑨2012年10月2日. 講師「内湾の貝類—縄文貝塚から現在までの利用や変遷」(京葉学園/博物館学習:千葉県立中央博物館)

マスコミ報道(計1件)

①製塩遺跡のウズマキゴカイについて. 朝日新聞 2012年8月21日

展示(計3件)

- ①2011年9月. 展示協力「横浜ユーラシア文化館 企画展 フィリピンの文化と交易の時代 ハロハロで Good!」(フィリピンの真珠貝等の同定)
- ②2012年10月6日～1月25日. 千葉県立中央博物館「おもしろ研究紹介. 遺跡の貝を調べる」(今回の真珠貝出土遺跡調査の結果も紹介した)
- ③2013年3月24日～4月26日. 千葉県立中央博物館「トピックス展. 貝類新収蔵資料. 伏見道雄貝類コレクション. パート1」(真珠貝等の展示を行った)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒住 耐二 (KUROZUMI TAIJI)
千葉県立中央博物館・研究員
研究者番号: 8025140